

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

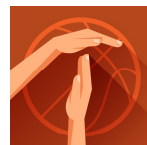
特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「C・C・Q」～穏やかに・近付いて・静かに～



9月2日（土）、バスケットボール男子W杯順位決定戦、日本VSカーボベルデは、日本中が一つになって熱く盛り上がりました。これまで後半に逆転する劇的な試合が続いていましたが、この日は第4Qに入った途端、それまで面白いように入っていたシュートが、パリ五輪切符獲得のプレッシャーからか、ことごとくバスケットリングに嫌われる苦しい展開です。

5点差と迫られた日本、残り3分38秒でトム・ホーバス監督はタイムアウトを取りました。肩で息をする選手たちに、いつもの激しい怒鳴り声のゲキではなく、穏やかな表情で、「自信もって打って!」「自信もってトライ!」と、選手一人一人に近付き、静かに伝えました。このタイムアウトのホーバス監督の言葉に、選手たちは冷静さと自信を取り戻し、勝利することができました。主将の富樫選手は「監督の言葉は常に、強い気持ちで伝わってくる」と話していました。



教室の雰囲気ざわざわしているとき、子どもたちに大事な話をするとき、ややもすると大きな声で早口に伝えがちになります。しかし、ワーキングメモリや集中して話を聞く力に課題のある子どもには、伝わっていないことがあります。伝えたいことを確実に子どもに届けたいのであれば、穏やかに、近くで、目を合わせて、静かな口調で伝える必要があります。「Calm（カーム／穏やかに）、Close（クローズ／近くで）、Quiet（クワイエット／静かに）」を心掛けましょう。



更に、この夏、日本中が熱くなったのが高校野球です。今年の夏の甲子園の主役は、107年ぶりに全国優勝を果たした慶応高校（神奈川県代表）でした。『エンジョイベースボール』を掲げた森林貴彦監督は、選手たちを怒鳴らないために拡声器を使ったり、グラウンドで必要な指示がはっきり聞こえるように『声出し』を禁止しているようです。

大事なことを子どもに伝えるポイントは、「CCQ」に加えて「静けさ」です。



とれたて直送便



「じーさん、ばーさん」～失礼な(?) ひと言～

ある福島県のひなびた旅館に、東京から来た老夫婦が宿泊したときに体験したエピソードです。

夕方、宿の下駄を借りて、散歩に出ようとしたところ、玄関にいた番頭さんが大きな声で、「じーさん、ばーさん、お出かけ!」と言ったそうです。これを聞いた老夫婦は、カチンときましたが、腹を立てることもなくそのまま外出しました。しかし、散歩から戻ると、さきほどの番頭さんがまたしても、「じーさん、ばーさん、お帰り!」と言ったのです。一度ならず二度目の失礼。さすがに番頭さんに抗議をしました。番頭さんはきょんした顔で失礼なことを言った覚えはないと言い張ります。番頭さんは、こう言ったのです。「13番（老夫婦が泊まっている部屋の番号）さん、お帰り!」と。福島のとんちで「13番さん」は「ずうさんばんさん」になります。それが、老夫婦には、「じーさん、ばーさん」と聞こえたのです。

伝えたいことを確実に相手に届けたいのであれば、「CCQ」と「正しい発音」です。